

病院だより

心臓の検査

町立和寒病院 臨床検査技師 中山 千夏

「心臓の検査」といってもたくさんの種類があり、混乱してしまうこともあるのではないのでしょうか。町立病院で実施している主な検査をご紹介します。



『心電図検査』

健康診断でも実施される、簡単で最も一般的な検査です。

心臓から発生している微弱な電気信号を記録するもので、12種類の波形を分析して診断します。心房細動・期外収縮・伝導ブロックなどの不整脈、心筋梗塞・狭心症などの虚血性変化、心肥大・心筋症などの心臓の形態異常などが予測できます。

様々な病態を予測できる検査ですが、検査をしている数秒間の動きしか捉えていないことや、心臓を直接見ているわけではないことから、心電図で異常が認められた場合にはさらに詳しい検査が必要になります。

『ホルター心電図(24時間携帯型心電図検査)』

検査の原理は心電図検査と同様ですが、24時間記録することにより就寝時や日常生活で起きる不整脈や虚血発作の状態が把握できます。胸部症状があった時間の心電図が見られる利点もあります。

以前は記録媒体としてカセットテープを使用していたため本体が大きくて重く、持ち運びが不便・カセットテープの動作音がうるさい等の大変な思いをされた方もいると思います。

現在は胸部4ヶ所に薄い電極シールを貼り、本体はSDカード等の記録媒体を使用し小型化されたことにより、検査による負担が減っています。

『心エコー検査(心臓超音波検査)』

超音波検査とは、人の耳には聞こえない高い周波数の音波を身体に当てて跳ね返ってくる音波を画像化する検査で、心電図とは異なり心臓を直接観察する検査です。

心臓の大きさ(心拡大)や壁の厚さ(心肥大)、弁の異常(弁膜症)などの形態観察や、リアルタイムで動いている心臓を見ることができ、心筋梗塞などによる壁の運動低下はもちろん、心内腔・血管内の血流速度を測定し心機能評価や重症度評価の指標を求めることができます。



『血液検査』

急性心筋梗塞時に上昇する数値や心不全時に上昇する数値を血液から検査します。

上記以外に、心筋梗塞の原因で動脈硬化の危険因子となる脂質異常症の検査や、カリウム・カルシウムなどの電解質、高血圧関連の内分泌検査なども、心臓と関係してきます。

いずれの検査にも利点と欠点があり、ひとつの検査では正確に心臓の状態は把握できません。複数の検査を組み合わせることで心臓の状態を調べていきます。検査について不明な点・不安なことがありましたら検査技師におたずねください。